令和7年度　自己評価・施設関係者評価　結果　なかよしこども園

Ⅰ. 教育目標

教育理念
人間への基礎作りとしての豊かな創造性と感性を育てる
・体験を通して子ども自身が自分で身につけ、学ぶ能力の基盤を養う。
・自分の頭で考え判断し自発的に行動のとれる子に。

教育の精神
・望ましい保育環境を作り
・適切な言葉がけを開拓し
・豊かな人間形成をめざす

保育方針
・各年齢の発達の特徴をよくとらえ、0歳から就学までの一貫性のある保育。
・発達の個人差を受け止め、一人ひとりの違いが大切にされ、その違いが育ち合いを生む保育。
・実体験を通して創造性や豊かな感性を養う保育。
・子ども一人ひとりをあたたかく受容し安定感と信頼感を持って活動できるよう、
　心身共に健康的な生活をめざす保育。
・少子化、核家族化による子育て環境の変化を受けとめ、異年齢集団の関わりの中で
　子ども同士の育ち合う関係を大切にする保育。
・働く女性の増加に伴いその子育てと就労を支え、家庭の育児機能の高揚を図るとともに、
　地域の子育て家庭へも支援活動の強化に努める。

Ⅱ. 今年度の重点目標

・子ども一人一人の思いを大切にし、子ども自らが育とうとする力を育む
・様々な取り組みの中で、子どもたち同士で学び、育ち合う関係を築く
・全職員が人事考課、研修会、研究会を通して 質の高い保育、教育を目指す
・避難訓練・消防訓練等を通して災害に備える
・園内の環境の安全面の充実を図る

Ⅲ. 評価項目と取組み状況

	評価項目	評価・課題
1	（教育内容） 保育・教育方針の理解・徹底	理念や教育・保育目標の実現に向け、日々の行動基準や子どもへのかかわり方、園庭での見守り方などについて、昼礼での情報共有や事例検討を通して職員間で確認し合っています。一方で、共通認識が実際の保育場面での行動に十分結びついていないこともあるため、今後も具体的な事例をもとに意見交換を重ね、職員一人ひとりが理解を深めながら、日々の実践に反映できるよう取り組んでいきたいと考えています。
2	（教育内容） 指導計画の作成と評価	子ども一人ひとりの発達や個々の姿を捉え、教育・保育要領に基づき、年齢や発達に応じた指導計画を立案しています。日々の保育を振り返り、子どもへの適切な関わりや必要な援助について職員同士で意見を出し合い、保育内容の見直しや改善につなげています。また、園での子どもたちの生活や成長の様子を写真とともに保護者へ発信し、園での姿を共有できるよう努めています。
3	（教育内容） 保育・教育環境の構成	子どもが自ら考え、意欲的に行動できるよう、一人ひとりが安心して過ごせる環境や、保育者との信頼関係を大切にするとともに、教材や玩具の選定、配置にも工夫を重ねています。今後も、勉強会や研修を通して職員の知識や専門性を高め、それぞれが学びを深めながら、子どもの思いや主体性を尊重した保育の実践につなげていきたいと考えています。また、保護者にも園の保育方針や日々の取り組みを分かりやすく伝え、共通理解を深めながら、子どもの成長を共に支えていけるよう努めていきます。
4	（教育内容） 子どもとの関わり	子ども一人ひとりの気持ちや発達の様子を丁寧に受け止め、情緒の安定を大切にしながら、明確な目標や課題を意識して日々の保育に取り組んでいます。職員全員が共通認識のもと、一貫性のある関わりや支援を行えるよう、研修や話し合い、事例検討などを通して理解を深め、保育の質の向上に努めています。また、子ども自身の力や成長を信じ、温かく見守る姿勢を大切にするとともに、職員一人ひとりが日々の実践を振り返り、自己評価を通して課題を明確にし、今後の保育の改善や新たな目標の設定につなげています。
5	（職員体制の充実） 職員同士の協力・連携	職員一人ひとりの役割や業務を明確にし、それぞれの得意分野や強みを生かしながら、互いに協力して園運営に取り組んでいます。職員同士が円滑に連携し、それぞれの力を発揮できるよう、学年を越えた情報交換や意見共有を大切にするとともに、取り組みや保育の事例を共有し、園全体の保育の質の向上につなげています。また、各職員が係活動を通して自分の役割を主体的に担い、それぞれの個性や能力を発揮しながら、誰もが活躍できる職場づくりと、より良い保育環境の実現に努めています。
6	（研修と研究） 研修・研究への取組み	保育の質を高め、職員一人ひとりの専門性や実践力の向上につなげるため、園内外の研修への参加を促しています。また、毎週土曜日には、希望する職員が自由に参加できるZoom研修を自主研修の機会として設け、それぞれのペースで学びを深められる環境づくりに取り組んでいます。一方で、研修への意欲や学びの姿勢には個人差があることから、職員が主体的に学び続けられるよう研修内容や実施方法を工夫するとともに、短時間勤務の職員も無理なく学び、成長できるような育成体制の充実が今後の課題となっています。
7	（安全・衛生管理） 衛生への配慮	子どもたちの健康と安全を守るため、日々の遊具や保育環境の点検を行い、危険箇所や子どもの行動について職員間で情報を共有し、事故防止に努めています。また、避難訓練や交通安全教室を計画的に実施し、安全への意識を育んでいます。健康や安全に関する情報を園内掲示やお便りで家庭と共有するとともに、感染症の発生状況も保護者へその都度配信し、感染拡大の防止に取り組んでいます。
8	（地域との連携） 地域との関わり	季節の行事などを通して、地域の方々や老人会の皆さまとの交流を深めています。また、中高生の保育ボランティアや高校生の保育体験を受け入れ、子どもたちがさまざまな世代の人と触れ合う機会を設けています。さらに、年長児の小学校訪問や小学生の生活科の授業での来園など、交流を通して就学への期待を高めるとともに、保育と小学校の連携を図っています。

Ⅳ. 施設関係者の評価

子どもが毎日楽しそうに登園し、自分のやりたい遊びを満足するまで楽しめる環境を整えていただいていることを嬉しく思います。子ども自身も毎日園に行くことを楽しみにしており、安心して過ごせていることが伝わってきます。体調や日々の様子を丁寧に知らせていただけるほか、コドモンや園の見える化資料を通して、写真とともに園での活動や子どもたちの様子を知ることができ、園でどのように過ごしているのかが分かりやすく、安心につながっています。また、子どもだけでなく保護者の気持ちにも寄り添ってくださることに感謝しています。異年齢の子どもたちとの関わりやさまざまな体験を通して、思いやりの気持ちが育まれ、日々成長していることを嬉しく感じています。

令和7年度　園評価（自己評価）・施設関係者評価　結果　りょうけさくらこども園

Ⅰ．教育目標

教育理念
人間への基礎作りとしての豊かな創造性と感性を育てる
・体験を通して子ども自身が自分で身につけ、学ぶ能力の基盤を養う。
・自分の頭で考え判断し自発的に行動のとれる子に。

教育の精神
・望ましい保育環境を作り
・適切な言葉がけを開拓し
・豊かな人間形成をめざす

保育方針
・各年齢の発達の特徴をよくとらえ、0歳から就学までの一貫性のある保育。
・発達の個人差を受け止め、一人ひとりの違いが大切にされ、その違いが育ち合いを生む保育。
・実体験を通して創造性や豊かな感性を養う保育。
・子ども一人ひとりをあたたかく受容し安定感と信頼感を持って活動できるよう、
　心身共に健康的な生活をめざす保育。
・少子化、核家族化による子育て環境の変化を受けとめ、異年齢集団の関わりの中で
　子ども同士の育ち合う関係を大切にする保育。
・働く女性の増加に伴いその子育てと就労を支え、家庭の育児機能の高揚を図るとともに、
　地域の子育て家庭へも支援活動の強化に努める。

Ⅱ．今年度の重点目標

・子ども一人一人の思いを大切にし、子ども自らが育とうとする力を育む
・様々な取り組みの中で、子どもたち同士で学び、育ち合う関係を築く
・全職員が人事考課、研修会、研究会を通して 質の高い保育、教育を目指す
・避難訓練・消防訓練等を通して災害に備える
・園内の環境の安全面の充実を図る

Ⅲ．評価項目と取組み状況

評価項目		評価・課題
1	（教育内容） 保育・教育方針の理解・徹底	理念や教育・保育方針の浸透に向け、行動基準の読み合わせや昼礼、会議での共有を行ってきた。 職員同士で振り返りや意見交換を行い、大切なことを確認し合う機会を持つことができた。 一方で、職員間で意識や認識に差が見られることもある。 今後も共通理解を深め、日々の実践につなげていきたいと考えている。 来年度は計画的に話し合いの時間を確保していきたい。
2	（教育内容） 指導計画の作成と評価	各クラスで月案について話し合い、子ども一人ひとりの姿や育ちを踏まえて翌月の計画を立てている。 日々の生活リズムを大切にしながら、計画に沿った保育を実践し、評価や振り返りを行っている。 子どもへの関わり方や援助について職員間で共有し、保育の改善につなげている。 また、園での子どもの様子を写真とともに保護者へ伝えている。
3	（教育内容） 保育・教育環境の構成	子どもが興味や関心のある物に主体的に関われるよう、発達や姿に合わせた環境設定を行っている。 環境の見直しについて職員間で話し合い、より良い保育につなげている。 一方で、衛生管理や整理整頓にクラス間で差が見られる。 今後は衛生チェックを活用して改善を図り、安全で清潔な環境づくりに努めていく。
4	（教育内容） 子どもとの関わり	子ども一人ひとりの気持ちや思い、興味に寄り添い、クラス内で連携しながら保育を行っている。 未満児では担当制保育を通して、子どもや保護者との信頼関係を深めている。 また、子どもの主体性を育むために大人の関わり方について話し合い、職員間で気づきを共有している。 今後も共通理解を深め、子ども主体の保育の実践につなげていく。
5	（職員体制の充実） 職員同士の協力・連携	行事や日々の保育の中で、職員同士が声をかけ合い、協力しながら業務を進めている。 行事の準備も連携を図りながら、スムーズに進めることができた。 一方で、職員間で意識の差や連携が十分に取れない場面もある。 共通理解を深めるため、関係する職員同士で直接話し合う機会を設け、連携の改善に取り組んでいる。
6	（研修と研究） 研修・研究への取組み	理念や接遇、わらべうたなどの研修に参加し、保育に対する共通理解を深めている。 キャリアアップ研修で学んだ内容や研修報告を昼礼で発表したりlineworksで配信し職員間で共有している。 また、ビデオ研修や自主研修にも積極的に参加し、学びを深める機会が増えている。 今後も職員の資質向上に向け、研修への参加を促し、学びを保育の実践につなげていく。
7	（安全・衛生管理） 衛生への配慮	感染症発生時には、コドモンで保護者へ情報を発信し、職員間ではlineworksで情報共有と対策の徹底を図っている。 日頃から手洗いや消毒、遊具や環境の点検を行い、安全・衛生管理に努めている。 また、毎月の避難訓練や引き渡し訓練を実施し、災害時に備えている。 今後も職員間や家庭との連携を深め、安心・安全な園環境づくりに取り組んでいく。
8	（地域との連携） 地域との関わり	さくらフェスタや遠足などを通して、地域の方々や和老会の皆さんとの交流を深めている。 日々の散歩でも挨拶を交わし、地域とのつながりを大切にしている。 また、中高生の保育体験やボランティアの受け入れを行い、多世代との交流を図っている。 近隣の相生小学校との交流も行い、子どもたちの就学に向けた連携を進めている。

Ⅳ．施設関係者の評価

毎日の写真付き掲示を通して、子どもたちの活動や友だちとの関わり、頑張っている姿などを知ることができ、園での様子や成長を感じられることが嬉しい。また、「おいたち」の取り組みも、子どもの成長を振り返る大切な機会となっている。職員が明るく挨拶をしてくださり、子どもの体調や日々の様子も丁寧に伝えてくださるため、安心して預けることができる。子育ての悩みや不安を気軽に相談でき、自分の思いや意見も伝えやすい雰囲気があり、親の気持ちにも寄り添っていただけることが心強い。日頃の会話や行事後のアンケートなどを通して、保護者の声を受け止め、改善につなげてくださることにも信頼を感じている。異年齢保育では、きょうだいのような関わりの中で思いやりが育まれ、家庭では経験できないさまざまな体験ができることも魅力に感じている。今後も子ども一人ひとりの成長を見守りながら、保護者にも寄り添っていただけることを期待している。

令和7年度　園評価（自己評価）・施設関係者評価　結果　ひらくちかえでこども園

Ⅰ．教育目標

○ 保育理念　いつも心に明るい笑顔を

○ 保育目標
（1）健康で活動的な子
（2）自分に自信をもってさらに自分でしてみようとする子
（3）自分を信じて自分のペースを大切にする子
（4）興味関心をもったことに集中し意欲的にとりくむ子
（5）自分の想いを表現する子
（6）想像力、創造性、感性が豊かな子
（7）仲間を信頼し協力し合ったり助け合う子
（8）決まりの大切さが分かり自ら守る子

○保育方針
〈1〉安心して過ごせる環境の中で主体的に活動し、その実体験や人間関係をとおして自分に自信をもち、社会的に自立していくための配慮、援助をする。
〈2〉友だちや身近なおとな、地域、社会との仲間意識をもち、協力・協調して過ごしていく中で人と関わる力を培う。

○行動指針
◎私たちは、いつも『心の笑顔』を大切にして、子どもたち、職員同士、保護者、地域のみなさんと共に成長することを目指します。日々の行動を通して人間的な魅力を身につけ、笑顔の絶えない働きがいのある職場をつくります。

《1》＜心からの笑顔＞『どんなときも心は笑顔で』笑顔は誰にとっても幸運を呼び込む魔法です。笑顔であいさつ、笑顔で受け答え、笑顔でお願いすること。いつも心を笑顔にして、まわりの人も笑顔にしよう。

《2》＜感謝＞『感謝を声に出そう』今の自分があるのは誰かのおかげと、まわりに感謝しよう。 子どもたち、職員同士、保護者の方、地域、さらには業者のみなさんに感謝の気持ちを声に出して伝えよう。

《3》＜愛情＞『愛情を表現しよう』子どもたちを自分の親や大切な親友と同じように、愛情をもって接すれば信頼関係が生まれます。相手のことを思いやり、自分のことも大切にして行動しよう。

《4》＜プラス思考＞『プラスの言葉、態度、表情で伝えよう』子どもたちが自分で意思決定して行動することにより、自己肯定感が高まります。プラスの言葉に転換して伝え、子どもたちを信じて考える時間を大切にしよう。

《5》＜プロセスを大切に＞『プロセスを大切にしよう』上手くいっても、いかなくても、努力の過程をあたたかく見守れば、子どもに自信が芽生えます。プロセスを大切にし、物事に本気で取り組む姿勢、困難に立ち向かう力を育もう。

《6》＜可能性（子ども/職員）＞『一人ひとりの「らしさ」、「可能性」を 見つけよう』一人ひとりの様子から、その子の「らしさ」を見つけることができます。個性を引き出し、強みを見いだすことで、誰もが輝きます。一人ひとりを輝かせよう。

《7》＜体験（健全な心と体）＞『子どもの体験を見守ろう』子どもは好奇心の塊です。実体験を通して心が動き、成長します。いろいろなものを見る、聞く、触る。子どもの体験を見守ろう。ときにはサポートしたり、危険予知の意識を養おう。

《8》＜心と心＞『心（人間性）を優先しよう』子どもの本当の意味での成長は心（人間性）の成長です。ルールで片付けるのではなく、心と心のぶつかり合いの中で柔軟に臨機応変に意思をもって解決できる心を育もう。

Ⅱ．今年度の重点目標

・子ども一人ひとりの思いや気持ちを丁寧に受け止め、安心して自分らしく育つことができる環境をつくる。
・子どもの「知りたい」「やってみたい」という好奇心を大切にし、主体的に遊び、学ぶ力を育む。
・人や自然、文化との豊かな関わりや実体験を通して、感性や創造性、探究心を育てる。
・地域とのつながりを深め、人との交流や地域の魅力に触れる機会を大切にする。
・子どもの姿や発達を丁寧に捉え、興味や関心に寄り添った環境構成と保育を実践する。
・職員同士が学び合い、対話や振り返りを通して保育の質を高め、学びを日々の実践につなげる。
・人事考課や研修、研究会を通して、一人ひとりの専門性や保育力の向上を図る。
・避難訓練や消化訓練を充実させ、災害時に適切に行動できる体制を整える。
・園内の安全点検や環境整備を徹底し、子どもたちが安心して過ごせる環境を維持する。

Ⅲ．評価項目と取組み状況

評価項目		評価・課題
1	（教育内容） 保育・教育方針の理解・徹底	園だよりや行動基準、会議などを通して、園の理念や教育方針を職員全体で共有し、おおむね理解している。また、共主体に関する同じ本を読み、学び合いながら意識の統一や仲間意識を高めている。職員会議やクラス内で目標や課題を話し合い、保育の実践と振り返りを深めている。今後も、個人日誌の感想を昼礼で伝え合うことで、さらに意識の共有を図っていきたい。
2	（教育内容） 指導計画の作成と評価	クラスで子ども一人一人の姿や育ちを話合い計画の制作ができている。配慮の必要な子については個人記録を作成。専門の講師を招いてアドバイスをもらい、個別の対応を園内全体でさらに共有していきたい。
3	（教育内容） 保育・教育環境の構成	子どもが生活の流れを把握し、自信を持って過ごせる環境を整えている。また、発達や興味関心に合わせた手作りおもちゃや環境を工夫し、職員間で意見交換や遊びの様子を共有している。子どもの「知りたい！」「やってみたい」という気持ちを大切に、地域のお店の見学など実体験を取り入れながら遊びの発展につなげている。月に1度、クラスの環境動画を撮影し、職員全体で共有している。今後も子どもの声を聞き保育に繋げていきたい。
4	（教育内容） 子どもとの関わり	未満児クラスは担当制の中で、特定の大人と関係を深めることで愛着関係が育まれ、丁寧な関わりができていた。 子ども一人一人の気持ちや思いに共感し関わることができた。集団生活の中でも個々のペースを大切にし、意欲や自信をさらに高めていく関わりを深めていきたい。
5	（職員体制の充実） 職員同士の協力・連携	行事の時は職員みんなが協力し合い、よりよい行事となるように考え、行動することができた。日々の保育の中でクラス内だけでなく全体との連携を取りながら、各々が自分で考え行動することを大切にした。挨拶、お互い様の気持ちや相手への尊重、思いやりの気持ちから園内のあたたかな雰囲気作りしていくことができた。今後も職員それぞれが、自身の強みを活かして輝けるよう、職員の主体性も大切にしていきたい。
6	（研修と研究） 研修・研究への取組み	クラスの写真や動画を用いたプレゼンや、その後の話し合いを通して課題や目標を確認し、保育の振り返りを深めた。また、同じ本の感想共有や事例検討、専門研修など、職員同士が学び合う機会を大切にし、保育の質を高める意識を育んだ。今後は、新しく入職した職員が安心して成長できるよう、スキルアップの仕組みを整え、継続的にサポートしていきたい。
7	（安全・衛生管理） 衛生への配慮	衛生では園内の清掃美化に力を入れて清潔を保った。会議の中で嘔吐物処理の研修を行ったり、消防の救命救急の方によるAED研修を受けた。 安全では毎日昼礼の中で、ヒヤリハットの共有をした。避難訓練を行ったり、お散歩マップを作成し、安全意義を高めた。園内の遊具や設備の安全点検を毎日行い、修繕が必要な箇所が見つかった場合は、速やかに対応していく。
8	（地域との連携） 地域との関わり	太鼓のコンサートや秋まつりに地域の方を招待したり、みかんをいただいた方へ写真付きのお礼の手紙を届けたりと、地域との交流を大切にした。また、子どもの「ピザ屋さんごっこをしたい」という声から、実際にドミノ・ピザを見学し、作る様子を見せていただくことで遊びが広がり、心に残る貴重な体験となった。こうした交流を通して、地域の方との心のつながりや支え合いを感じることができた。

Ⅳ．施設関係者の評価

・ 職員の皆さんが明るく穏やかに接してくださるので、子どもたちがのびのびと過ごしている様子が日々感じられます。
・子どもが自由にのびのびと過ごしている姿から、先生方がいつも温かく関わってくださっていることを感じます。
・子どもの気持ちを優しく受け止め、愛情いっぱいに接してくださる先生方や、魅力的な玩具や環境、友だちとの楽しい関わりに恵まれ、幸せな園生活を送ることができていると感じています。
・園生活を通して、自分なりに考えて行動したり、友だちとの関わりの中で自分の気持ちを伝えたり、相手を思いやる姿も見られ、子どもの成長を感じています。
・園全体の雰囲気がとても良く、先生方が子ども一人ひとりに丁寧に関わってくださることを嬉しく思っています。
・一人ひとりに合わせた離乳食の献立を毎週考えてくださり、家庭での食事づくりにも参考になっています。
・未満児クラスでは、少人数の担当制で丁寧に関わっていただき、子どもたちも安心して過ごしています。一人ひとりの好みや思いを大切にしてくださることが伝わり、安心しています。